令和５年度

仙台市学校図書館運営モデル校
取組事例集

令和６年 10 月

仙台市教育委員会

はじめに

この事例集は，仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）に基づき平成29年度から実施している「学校図書館運営モデル校事業」の，令和５年度モデル校の取組をまとめたものです。

モデル校が実施した学校図書館運営に関する取組内容や取組の結果等を紹介していますので，各校における学校図書館運営の参考としていただき，子どもの読書環境の充実につなげていただきたいと存じます。

◆◆◆◆◆◆◆目次◆◆◆◆◆◆◆

１　仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）について

（１）計画の策定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（２）計画の目的と基本的方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

（３）成果指標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

（４）重点的な取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２

２　仙台市学校図書館運営モデル校事業

（１）計画における位置づけ・事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・・３

（２）令和５年度モデル校の取組事例紹介・・・・・・・・・・・・・・・・３

・東二番丁小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

・若林小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

・西中田小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

・川前小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

・高森小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

・住吉台小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

・館小学校・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16

・南光台東中学校・・　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

（３）令和５年度モデル校事業の総括・今後・・・・・・・・・・・・・・20

1　仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）について

（1）計画の策定

平成 13 年に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき政府が策定している「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を踏まえ，仙台市においても，平成 16 年に仙台市子ども読書活動推進計画の第一次計画を，平成 24 年に第二次計画を策定し，子どもの読書活動推進に取り組んできました。

第二次計画期間で見えた課題等を踏まえ，平成 29 年に**「仙台市子ども読書活動推進計画（第三次）」**（以下「第三次計画」）を策定し，**平成 29 年度から令和５年度まで**の７年間の計画期間において，様々な取組を行いました。計画の概要は下記のとおりです。

※令和６年３月に，第三次計画の基本的方針を引き継ぐ「仙台市子ども読書活動推進計画 2024」（計画期間：令和６年度から令和 10 年度まで）を策定しました。引き続き，子どもの読書活動の推進に取り組んでいきます。

（2）計画の目的と基本的方針

計画の目的

子どもが自ら読書を楽しみ，人生をより深くより豊かに生きる力を身に付けることができる読書環境をつくる

第三次計画では，子どもが読書に親しむだけでなく，自ら進んで楽しく読書することを通して，様々な知識や経験や考え方に触れることを目的としました。また，身近なことから国際的・専門的なことまで幅広く多くのことを学び，人生をより深くより豊かに生きることができる力を身に付けられるよう，多様な読書活動ができる環境づくりを目指しました。

そして，この目的を達成するために，次の４つを基本的方針としました。

基本的方針

（１）子どもが読書に親しむ機会の提供

子どもが読書の楽しさ，大切さを知ることができるよう，家庭，地域，学校等において子どもが読書に親しむ機会を幅広く提供していきます。また，子どもの発達段階に応じた読書支援を行い，子どもが読書を継続的に楽しむことのできる力を育てます。

（２）子どもの読書環境の整備・充実

子どもが自ら足を運び，本を手に取りやすい読書環境の整備・充実を図るとともに，子どもの読書活動を支える人材の育成や支援に取り組みます。

（３）子どもの読書に関する理解の促進

子どもの身近にいる大人に対し，読書の意義や大切さについて啓発活動を行うとともに，子どもだけでなく大人も読書に親しめる環境づくりを通じて，社会全体で子どもの読書活動を推進します。

（４）家庭，地域，学校，図書館，ボランティアなどの連携・協力

子どもの読書活動を取り巻く様々な主体が相互に協力し，連携を図りながら計画を推進します。

（3）成果指標

計画の推進状況把握のため，目的達成と関連性のある指標について成果指標を設定しました。

一方で，読書活動の数量的な広がりだけを求めるのではなく，子どもたちの感性を磨き，表現力を高め，創造力を育むことのできるような質の高い読書活動を広めていくことも必要です。

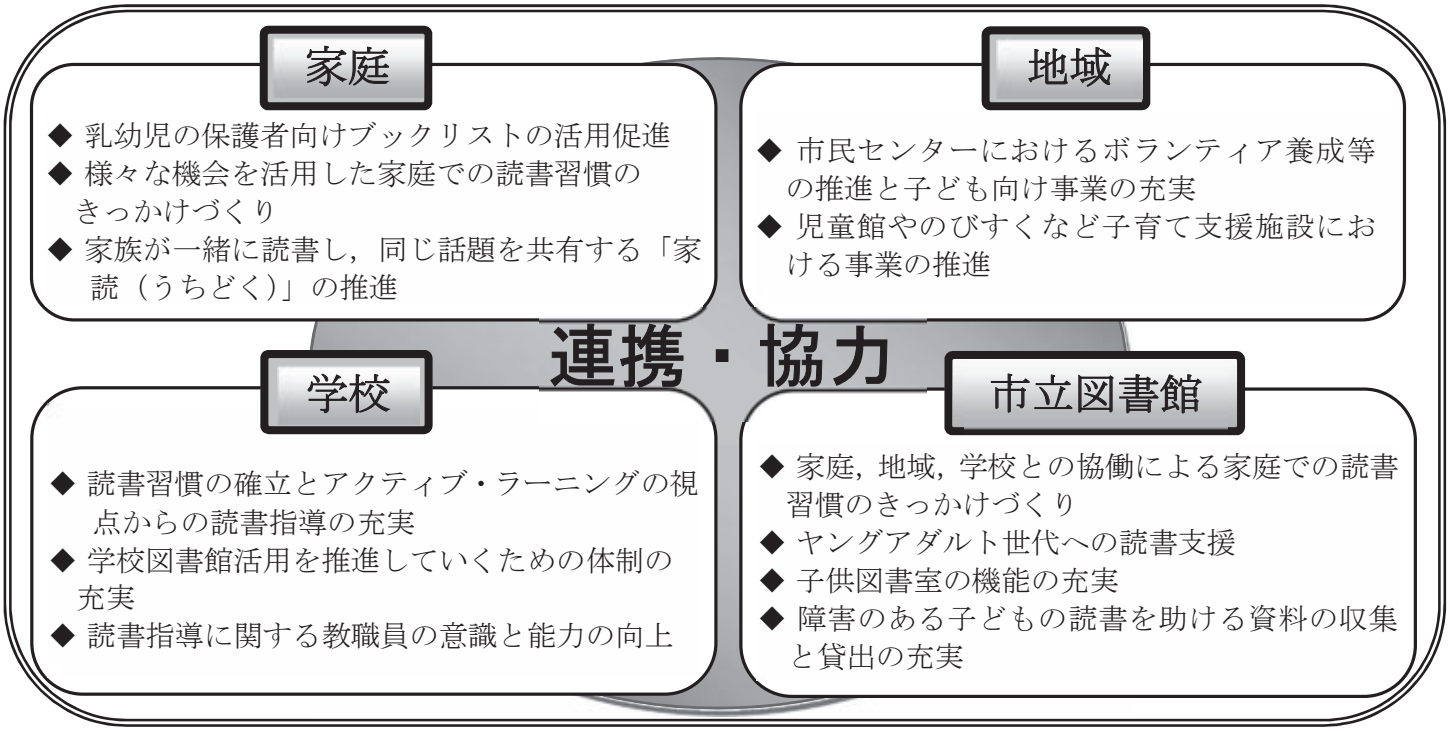
成　果　指　標		第二次実績（平成28年度）	第三次目標（令和５年度）
家や図書館でふだん（月～金）１日に30分以上読書する児童・生徒の割合（教科書，参考書，漫画，雑誌を除く。）	小６	39.3%	45.0%
	中３	30.8%	35.0%
昼休みや放課後，学校が休みの日に，学校図書館や地域の図書館へ月１回以上行く児童生徒の割合	小６	39.4%	45.0%
	中３	18.5%	25.0%
市立図書館児童書蔵書冊数（15歳以下１人あたりの平均蔵書冊数）		5.2冊	5.5冊
市立図書館児童書貸出冊数（15歳以下１人あたり年間平均貸出冊数）		9.0冊	10.5冊
市立小・中学校の学校図書館貸出冊数（１人あたりの年間平均貸出冊数）	小	39.8冊	37冊（※１）
	中	6.3冊	9冊
市立図書館おはなし会参加人数		12,249名	12,000名
１か月に１冊も本を読まない子どもの数（不読率）	小	―	3%（※２）
	中	―	12%（※２）

※１　計画期間中，毎年度37冊を目標とする。

※２　平成28年度子どもの読書活動に関するアンケート調査では，仙台市の不読率は小学生5.9%，中学生16.5%。国の第三次基本計画では，計画５年目の平成29年度の指標として，小学生3%以下，中学生12%以下として設定している。

（4）重点的な取組

計画の目的を達成するために，４つの基本的方針のもと，家庭・地域・学校・図書館という４つのフィールドにおける重点的な取組を掲げ，計画の推進を図りました。



2　仙台市学校図書館運営モデル校事業

（1）計画における位置づけ・事業概要

第三次計画では，学校における重点的な取組として「学校図書館活用を推進していくための体制の充実」を掲げており，その具体的取組の１つとして平成 29 年度より開始したのが「学校図書館運営モデル校事業」です。

当事業では，学校図書館を利用する児童生徒を増やし，子どもの読書に対する興味関心を喚起するための取組の推進を目的として，学校図書館運営に関し特色のある取組を行う学校を学校図書館運営モデル校に認定し，図書購入費等の重点配分を行います。

令和５年度も，学校図書館運営に関し先進的・特徴的な取組を実施している学校や今後の取組が期待される学校をモデル校に認定し，図書購入費及び備品購入費，消耗品費の重点配分を行いました。

＜令和５年度モデル校＞

学校種別	学校名	重点配分額（図書購入費）	重点配分額（備品購入費）	重点配分額（消耗品費）
小学校（７校）	東二番丁小学校	150 千円／校	80 千円／校	5 千円／校
	若林小学校			
	西中田小学校			
	川前小学校			
	高森小学校			
	住吉台小学校			
	館小学校			
中学校（１校）	南光台東中学校			

（2）令和5年度モデル校の取組事例紹介

各モデル校において，読書に関する課題や当事業実施に当たり定めた実施目標のもと，重点配分予算を活用した図書及び備品等の購入による読書環境の整備をはじめ，図書館の運営・利活用に関する様々な取組が行われました。

図書の購入に当たっては，児童生徒自身が選書会に参加する機会を設け，読書と図書館に関心が向くよう取り組んでいただいた学校が多く見られました。備品等の購入に関しては，移動書架や展示スタンド等の整備・活用により，本を手に取りやすく，読書のきっかけとなるような環境を整えていただいた学校が多く見られました。また，教職員と図書事務員による学校内の連携や，地域の方や市立図書館との協働，保護者の方への働きかけ等により，多方面から子どもの読書活動の推進に取り組んでいただきました。

東二番丁小学校

【児童数：176 人】
（Ｒ５.５.１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

・児童・保護者の読書への興味関心を高め，１人あたりの貸出冊数を 70 冊以上にする。
・「読み物」への関心を高め，読書の質を向上させる。
・学習・情報センターとしての機能を高め，より一層授業で図書館資料が活用できるようにする。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●図書館を利用する児童に偏りがある。
●保護者に向けての図書館に関する発信・公開がほぼ無い。
●「読み物」を手に取らない児童も多い。
●調べ学習に使う本に古いものが多くなってきている。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　児童・保護者による選書会，本のリクエストの実施【新】
●図書館への関心を高めるため，保護者も参加可能な選書会を行う。
●ニーズに即した蔵書の充実を図るため，本のリクエスト BOX を設置する。

２　図書イベント，オススメの本の紹介の充実【継・新】
●図書委員会主催のイベントを行う。（継）
●放送で本の紹介を行う。（新）

３　目標冊数達成・ブックリストを完読した児童の表彰【継・新】
●目標冊数を 60 冊・100 冊として，達成した児童を表彰する。（継）
●教科書に掲載されている本や，教職員がおすすめする本等からブックリストを作成し，完読した児童を表彰する。（新）

４　学習センター，情報センターとしての機能を高める【継・新】
●教科書に掲載されている本や，調べ学習で使える本を充実させる。（継）
●各学級での調べ学習・読書活動の充実のため，コンテナを整備する。（新）
●図書館でも授業が行いやすいよう，ホワイトボードを整備する。（新）

【リクエスト BOX の設置】

取組による効果

１　児童・保護者による選書会，本のリクエストの実施
●保護者の図書館への関心を高めることができた。

２　図書イベント，オススメの本の紹介の充実
●子どもたちが興味を持つ本が増え，貸出予約が増えた。

３　目標冊数達成・ブックリストを完読した児童の表彰
●ブックリストに挑戦する中で今まで読んでこなかった本を読み，その面白さに気付く様子が見られた。

４　学習センター，情報センターとしての機能を高める
●学級への貸出が増えたり，授業で図書館を活用したりする姿が見られるようになった。

【選書会】

目標の達成状況

●児童・保護者に向けた取組を多く行い，読書への興味関心を高めるよう努めたが，１人あたりの貸出冊数は昨年度の 65.3 冊から微増の 67.5 冊に留まった。

●多くの児童は読み物よりも図鑑や学習漫画を選び取る実情があるが，ブックリストをつくったことによって，教員のおすすめする読み物や教科書掲載本等に挑戦し，「読んでみたら面白かった。」と話す児童もいた。

●先生方の希望から蔵書の充実や書籍を活用しやすい環境の整備に努めたことで，授業での図書館資料貸出が増加した。

取組を振り返って

●貸出冊数の大きな増加にはつながらなかったものの，保護者への発信を多く行ったことで，家庭で図書館について話す機会が増えた様子が見受けられた。次年度以降もこうした取組を継続しつつ，教室の近くに本を展示したり，児童同士のすすめ合いが生まれるような活動を企画したりするといったような取組を行うことで，読書への興味関心を高めていきたい。

●ブックリストや展示等を通じておすすめ本を提示することで，自分からは手に取らない本を手に取り，その面白さに気付く様子が見られた。一方で，今年度のブックリストは１レベルにつき８～10 冊取り組む想定で作成したため，参加する心理的ハードルが高いようだった。次年度は，より多くの児童に参加してもらえるように，１レベルにつき５冊程度に抑えて作成したり，書影を載せてイメージを持ちやすくしたりするなど工夫して取り組みたい。

【レベル別ブックリスト】

●先生方の希望をもとに蔵書の充実に努めたり，コンテナやホワイトボードの整備を行ったりした結果，学級への貸出が増えたり，授業で図書館を活用する姿が見られるようになったりした。一方で，今年も該当する分野の書籍がなく，授業のニーズに応えられなかった事案が何件かあった。今後も引き続き蔵書の充実や環境整備を進め，学習・情報センターとしての機能を高めていきたい。

◆ 注目 POINT ◆

●図書だよりの発行や保護者向けの選書会の開催等，保護者への発信を強化したことで，図書館への関心が高まった。

●ブックリストや本の紹介活動を通して，自分では選ばなかった本を手に取り，その面白さに気付く様子が見られた。

●先生方の希望をもとに授業内容に合わせた蔵書の充実に努めたり，コンテナやホワイトボードを用意して学級への貸出・図書館での授業を行いやすくしたりすることで，図書館の活用が進んだ。

若林小学校

【児童数：291 人】
（Ｒ５．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

進んで本に親しみ，年間 60 冊以上の本を読む。
（１か月に５冊以上の本を読む。）

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●学年によって年間の読書冊数にばらつきがある。
●学校全体で，児童が読む本のジャンルが偏っている。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　読書イベントの設定【継】

●図書委員会にて図書まつりを計画し，実施した。図書まつりは３日間の実施だったが，その１か月前から読書ポイントカードを配付し，集めたポイントに応じてプレゼント抽選会を企画した。プレゼント抽選会は昼のテレビ放送で行った。その際に，各学年で最も本を借りた児童に対し「ベストリーダー賞」を授与した。また，まずは児童が図書室に足を運びたくなるように，図書まつり期間中は図書事務員による読み聞かせを学年部ごとに実施したり，しおりのプレゼントを行ったりすることを手立てとした。

【図書まつりプレゼント抽選会】

２　児童による選書会の実施【継】

●児童による選書会を実施し，選書会をもとに図書購入を行った。また，地域の読み聞かせボランティアの方や職員にも選書に参加してもらい，児童に読ませたい本の希望をとった。選書会の時期を夏休み前に設定することで，選書した本を，全校児童が年度内にゆっくりと読むことができるように配慮した。

３　地域の読み聞かせボランティアの活用【継】

●月に一度，地域の方による読み聞かせの会を実施した。

４　環境整備の向上【新】

●図書費で国語の教科書で紹介されている図書や社会・理科の学習に関わる図書を購入した。他にも，備品購入費で購入した展示スタンドに図書委員のおすすめする本を展示し，図書室前の廊下に配置した。また，季節に合わせた掲示を行った。

取組による効果

１　読書イベントの設定

●読書ポイントカードの運用により，期間中の貸出冊数と図書室利用児童数が同年度の他月間と比べて大幅に増加した。「ベストリーダー賞」の授与は児童の読書意欲向上につながり，１人あたり年間貸出冊数が６学年中４学年で前年度より増加した。

２　児童による選書会の実施

●選書に参加し図書館運営に関わったことから児童の図書館への関心が高まり，図書室を訪れる児童が増加した。さらに，普段は読まない本に挑戦する児童が増えた。
●地域の方にも選書に参加していただくことで，異なる視点からの選書を行うことにつながった。

３　地域の読み聞かせボランティアの活用

●月に一度，地域の方による読み聞かせの会を実施したことで，読書への興味関心が高まった。

４　環境整備の向上

●図書費で国語の教科書で紹介されている図書や社会・理科の学習に関わる図書を購入したことで，授業で図書室の本を活用する学級が増えた。また，備品購入費で購入した展示スタンドに図書委員のおすすめする本を展示し，図書室前の廊下に配置したことで，そこから関連する本を借りに図書室を訪れるという児童も見受けられるようになった。季節に合わせた掲示を行ったことで，図書室が明るい雰囲気となり，季節の変わり目には新しい掲示を見にくるために図書室を訪れる児童もいた。

【図書委員おすすめの本の展示】

目標の達成状況

●令和５年度の全校児童中，月に５冊以上読書をする児童の割合は約60％と，前年度に比べ６％減となり，今年度は，昨年度以上の成果を上げることはできなかった。一方で，月に２冊以下（０冊も含む）読書する児童の割合は約11％と，前年度に比べ５％減となり，今まであまり本を読まなかった児童も，読書に興味を持つようになったと推察される。

●地域の読み聞かせボランティアの活用により，担任や図書事務員が読み聞かせを行う学級が増え，地域の方と児童とのコミュニケーションの場が確保できた。この結果を参考に令和６年度の取組も検討していきたい。

取組を振り返って

●児童が本に親しみ，読書を楽しむ習慣を身に付けるためには，本に触れる機会を創出することが重要だと感じた。本校は，読書に興味がない児童が多かったり，中学年以上でも低学年向けの絵本を読む児童が一定数見られたりするほどであったが，図書まつりや選書会等のイベントを実施し，まずは児童が気軽に図書室に足を運ぶということから始めたことで，楽しく読書をするきっかけとなった。

●気軽に本を手に取れる環境の整備や，居心地が良く明るい図書室を目指すなど，図書室内の環境整備をすることは，児童が図書室に足を運ぶことについて大きな効果があったと感じた。

●担任だけではなく，図書事務員や地域の方から読み聞かせをしていただいたり，本の紹介をしていただいたりすることで，様々な方向から児童の読書への関心を高め，本に親しむ意識や機会を促すことができた。

●教職員・保護者の意識も高めながら，様々な場面で児童と本をつなぐ取組を，引き続き実践していきたい。

◆　注目 POINT　◆

●毎年実施している「図書まつり」での読書ポイントカードの運用や，読書に関する表彰を実施することで，児童生徒の読書意欲を高めた。

●教室に展示スタンドを複数配置し，気軽に図書を手に取れる環境を整備した。

西中田小学校

【児童数：415 人】
（Ｒ５．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

児童が図書館運営に携わる機会を増やし，様々なジャンルの図書資料に触れることを通して，読書への関心を高めることで，年間貸出冊数の増加を目指す。低・中学年：70 冊以上，高学年 50 冊以上

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●自由読書に親しむ児童は多いが，読書の幅があまり広がらず，限られた図書資料に人気が集中しがちである。新刊と人気シリーズ以外の蔵書にどんなものがあるのかあまり把握していない傾向がある。

取組内容　※【新】＝新規取組 【継】＝継続取組

１　児童による選書会【継】

●児童が選書に参加することで，図書館運営に関わり，読書への関心を高めることをねらって実施した。

２　家読コーナーの設置【新】

●家族と読む本を選ぶことで，読書の幅が広がることをねらい，家読用のおすすめ本コーナーの設置と，親子で本の感想を書く「家読カード」の掲示を行った。

３　地域住民や保護者の選書会参加【新】

●選書会週間中の図書館の土曜開放で，地域の方や保護者が選書会に参加できるようにした。

４　児童による学級文庫作り【新】

●高学年では，学級文庫があまり利用されないという課題があったため，定期的に児童が自分たちで図書を選ぶようにした。職員が選ぶ本よりも低い年齢層の図書が選ばれる傾向があった。

【食育コーナー】

５　年間計画と連動したおすすめコーナー【新】

●年間の行事や季節に関連した学習に合わせておすすめコーナーをつくった。教員と児童に蔵書をアピールした。

６　読書ポイント２倍の書架キャンペーン【新】

●新しく，内容も面白い本が，新刊コーナーを外れた途端に借りられなくなっている傾向があるため，ポイント２倍書架を月替わりで設定した。

７　人気の新刊コーナーの設置【新】

●児童に特に人気の新刊の貸出開始日を日替わりで設定した。

取組による効果

１　児童による選書会

●児童が選書に関わることで，図書館や読書への関心が高まった。選書した本が納品されるのを楽しみに待っている児童がたくさんいた。選書会の際は，備品として購入した展示用書架やイーゼルを活用し，本の表紙が見えるように展示したことで，児童が本を手に取りやすくなった。

２　家読コーナーの設置

●備品として購入した展示用書架を活用し，特設コーナーをつくって展示したことで，多くの児童が関心を持つきっかけになった。

３　地域住民や保護者の選書会参加

●図書館の土曜開放に合わせて実施し，学校図書館の取組を知ってもらう機会となった。

４　児童による学級文庫作り

●高学年の学級文庫をそれぞれの学級の児童が定期的に選ぶことで，学級文庫も活用されるようになった。

５　年間計画と連動したおすすめコーナー

●備品として購入した展示用書架を活用し，各教科の学習や食育等と関連のある図書を展示したことで，児童の興味を引くことができた。

６　読書ポイント２倍の書架キャンペーン

●児童は，２倍ポイントのコーナーから積極的に借りたため，少し古い本まで手に取って読んでもらうことができた。コーナーが月替わりで別の棚になったことで，児童が手に取る図書の種類も幅広いものとなった。備品として購入したイーゼルを活用し，書架の中で表紙が見えるように本を展示したことで，普段借りられていなかった本がどんどん貸出になっていった。

７　人気の新刊コーナーの設置

●備品として購入したイーゼルを活用し，人気の新刊を１週間お披露目の展示をしたことで，多くの児童が関心を持ち，新しい利用者層を図書室へ呼び込むことができた。休み時間に図書室へ通う児童が増えた。

目標の達成状況

●全体の傾向として，児童が様々なジャンルの図書を手に取り，読書の幅が広がった。

●目標の貸出冊数の達成状況には，学年部ごとの傾向が見られた。高学年は１人あたりの目標数を達成した。中学年は授業での利用が少ない期間があり，目標の半分の冊数となった。低学年は，目標まであと 10 冊程度であった。

取組を振り返って

●図書の表紙が見えるようにすることで，書架に埋もれていた図書を借りてもらうことができた。

●意図的に２倍ポイントコーナーを設定することで，児童をたくさんの図書と出会わせることができた。

●家読コーナーを設置したことで，児童を良書と出会わせたり，親子で読書交流をさせたりする機会をつくることができた。

【家読コーナー】

◆　注目 POINT　◆

●家読コーナーによって，読書の幅を広げたり，家族で感想の交流を行うことで，作品を深く楽しんだりする機会をつくることができた。

●ポイント２倍書架の設定で，児童が様々なジャンルの本に出会う機会を多くつくることができた。

川前小学校

【児童数：474 人】
（Ｒ５．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

発展読書を行う授業の充実や，保護者との協働で取り組む読書習慣の展開，図書館掲示や展示，図書館行事の工夫により，読書習慣の確立を図る。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●読書量はあっても，学習マンガやライトノベル，短編集等，軽読書の傾向がある。休み時間の図書室利用が少なく，読書に積極的な児童と関心を示さない児童との二極化が見られる。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　「家読の日」の親子読書の推奨【継】

●「家読感想カード」に親子で感想を書き，交流する活動を継続した。取組の様子を図書だよりで紹介し，よりよい交流につながるようにした。

【図書だよりによる家読感想カードの紹介】

２　展示コーナーの充実・設置【新】

●図書室前，図書室内，多目的室内と３か所の計画的な展示を行うために，年間展示計画を作成し，季節の本，先生方のおすすめの本，シリーズ本，選書会で購入した本等，計画的に本の展示を行った。

●季節の本を展示するコーナーを図書室内に児童の手の届く高さで設置し，選書に迷う児童が気軽に本を手に取れるようにした。

●本事業の予算で購入した書架に低・中・高学年それぞれに人気な本を展示した。９類（文学）の本の配架の一番奥に設置し，様々な本に目を触れた上で手に取れるよう，設置場所を工夫した。

３　図書だよりの発行【継】

●図書館からのお知らせだけでなく，委員会の活動と関連付けたり，家読の参考になるよう，親子で楽しめる選書の紹介をしたりして，内容を工夫した図書だよりを発行した。学校のＨＰにも掲載し，広報活動を行った。

４　移動書架を活用した学年ごとの図書資料の展示【新】

●国語の発展読書等で使う図書資料のコーナーを各学年の廊下に設置し，単元を通して本を手に取りやすい環境を整えた。

●レファレンスカードを作成し，担任と司書教諭，図書事務員の連携を取れるようにした。

５　多様な図書館行事の実施【新】

●図書委員会を中心として，読書ビンゴ，しおりコンテスト，読書の木といった多様な図書館行事を行った。また，読み聞かせボランティアを活用し，ブックトークを行い，読書への意欲付けを行った。

取組による効果

１　「家読の日」の親子読書の推奨

●中学校区の「メディアコントロールデー」に合わせて，家読を推進してきた。家読感想カードに感想を書き合ったり，本に載っていたお菓子づくりをしたり，親子の温かな交流が見られた。

２　展示コーナーの充実・設置

●年間展示計画を作成したことにより，司書教諭と図書事務員と分担して展示の準備を計画的に

行うことができた。負担過重にならなかったことが，継続的な展示につながった。

●本の展示では，シリーズ本の紹介に力を入れたので，自分でも選ばない本を手に取ったり，借りたりするだけでなく，シリーズで読み進める姿が見られ，継続的な読書活動へとつながった。

3　図書だよりの発行

●保護者から選書に悩む声が聞かれたことと，児童に「給食コラボ」が好評だったことを受け，図書だよりで“本を読んだ後に食も楽しめる本”を紹介した。自主学習で実際につくってみた，食べてみたというレポートを書く様子も見られ，親子読書の良い提案となった。

4　移動書架を活用した学年ごとの図書資料の展示

●児童がすぐに本を手にする環境をつくることができ，朝読書や学習の隙間時間，休み時間等よく利用されていた。特に，高学年は図書室利用の時間を確保することが難しく，身近に本があることで読書量を増やすことができた。

●ブックトラックの数を確保し，学年展示への活用を促したことや，レファレンスカードを作成し，図書資料の準備がしやすくなるようにしたりしたことにより，授業で図書資料の活用が多く見られた。

【読書ビンゴ】

5　多様な図書館行事の実施

●図書委員だけでなく，担任の呼びかけもあり，どの活動も児童が楽しみながら行うことができた。経過や結果が気になり，図書室へ足を運ぶ機会も増え，図書室利用の増進につながった。

目標の達成状況

●掲示物や展示の工夫，昼の放送による図書の紹介を行ったことにより，図書室へ足を運ぶ児童が増えた。紹介した本を借りて，家読で家の人と一緒に読む姿も見られ，家庭での読書へとつながる様子も見られた。特に，高学年児童の１人あたりの年間貸出冊数が増え（５年生 57 冊→62 冊，６年生 16 冊→51 冊），掲示物や展示を参考に図書を選ぶ児童が多かった。

取組を振り返って

●今年度は「行きたい図書館」を目指して，図書館運営を行ってきた。本の貸出をしなくても，友達と話し合いの場として使う児童，下級生と一緒に話をしに来る児童等，読書以外での活用も見られ，児童の心地よい居場所になってきた。と同時に，図書委員を中心に，児童が楽しめる活動，読みたくなる本の配架ができ，児童の読書意欲の高まりも見られた。本事業の予算で上記のような環境を整備することができたところが大きい。来年度以降も，児童の読書意欲を向上させるべく，環境整備や広報活動に取り組んでいきたい。

◆　注目 POINT　◆

●年間展示計画を作成し，計画的で充実した図書の展示。

●図書だよりの工夫による，家庭での読書意欲の喚起と読書習慣の形成。

【展示コーナー】

高森小学校

【生徒数：254 人】
（Ｒ５．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

・読書を通して様々な世界や偉人の生き方を知ることで，将来の夢をふくらませる。
・読書に親しむ機会を設けることで，年間平均貸出冊数の 10%増（前年度比）を目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●クロームブックの導入等により，紙の本に親しむ機会が減っている。その結果，デジタル端末に頼りがちな児童が多く，紙の本からの情報活用能力が弱くなっている。
●図書館を利用している児童としていない児童との差が開いている。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　多読賞の授与【継】
●下学年で 60 冊以上，上学年で 100 冊以上借りた児童に対し，「多読賞」を授与した。

２　図書委員会による読書推進イベントの実施【継】
●１月に，図書委員会が企画したイベントを実施した。好きな本の紹介コーナーや感想コーナーの設置・スタンプカードの配付等を行った。

【好きな本紹介コーナー】

３　「読書通帳」の作成（本のタイトルや一言感想等を書き込む）【新】
●自分が読んだ本を記録する読書通帳を導入した。利用するかどうかは任意とした。

４　移動書架の購入・設置【新】
●備品購入費で購入した移動書架を配架し，学習で使用する本を各学年に貸し出す際に使用した。

５　英語の絵本の購入【新】
●図書費で英語の本を購入した。低学年では，校長により英語の本の読み聞かせを行った。

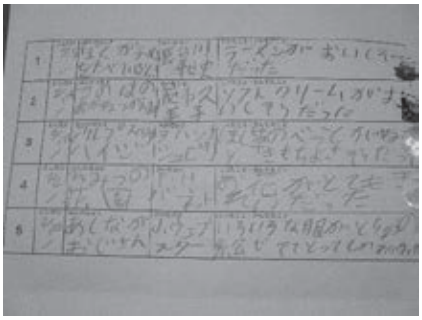
６　新しい本のリクエストボックスの設置【新】
●図書室に本のリクエストボックスを設置し，リクエストをもとに図書費で図書を購入した。備品購入費で購入したブックスタンドで図書を展示した。

取組による効果

１　多読賞の授与
●前年度多読賞をもらえなかった児童が，今年度はもらえるよう積極的に図書室に通う姿が見られた。

２　図書委員会による読書推進イベントの実施
●好きな本紹介コーナーや感想コーナーを見て，自分の知らない本に興味を持って手に取る児童がいた。スタンプカードでは，スタンプが貯まると２冊貸出券やしおりがもらえるため，下学年を中心に毎日図書室に通う姿が見られ，読書意欲の向上につながった。

【読書通帳】



３　「読書通帳」の作成（本のタイトルや一言感想等を書き込む）
●下学年を中心に取り組んでいた。１冊終了ごとに校長からコメントとシールをもらえるため，楽しみながら取り組むことができ，１・２年生の貸出数の増加につながった。

４　移動書架の購入・設置

●学習に関連する図書を教室に置くことで，教科の学習や調べ学習に役立てることができた。また，図書室でも関連本を手に取る児童が見られるようになった。

５　英語の絵本の購入

●習い事で英語に触れている児童や英語を母語とする児童が興味を持ち，本を手に取っていた。校長による読み聞かせの後には，その本を図書室で探したり，同じ著者の本を読んだりする児童がいた。

６　新しい本のリクエストボックスの設置

●自分のリクエストした本が図書室に入ることで，児童の図書室への関心が高まった。新しい本が入ると，積極的に手に取る姿が見られた。

目標の達成状況

●年間平均貸出冊数は，昨年度 38.7 冊，今年度 35.7 冊と，目標の前年度比 10%増とはならなかった。各学年の平均貸出冊数を見ると，下学年で 10%以上増加しており，読書に親しんでいたことが分かる。この結果を参考に，来年度は上学年の読書量を増やす取組を検討していきたい。

取組を振り返って

【俳句・感想コーナー】

●児童が読書に親しむためには，本を手に取りやすい環境づくりをすることが大切であると感じた。

●本校は，朝読書の時間がなく，１・２年生は昼休みもないため，本を読んだり，図書室を訪れたりする時間が限られている。今年度は，図書室に足を運ぶきっかけづくりのために，読書通帳の導入やリクエストボックスの設置を新たに行った。学級でも，常に絵本バッグや机に本を入れておくことを呼びかけ，移動書架を設置したことで，本を手に取りやすい環境を整えることができた。このような取組や委員会によるイベントの実施等をきっかけとして，本を読む習慣が少しずつ身に付いてきたと感じられる。

●今年度は，多くの学年が泉図書館のパッケージ貸出を利用した。学校の本に限らず，多くの本に触れる機会や環境をつくったことで，児童の興味関心も広げることができた。

●来年度は，読み聞かせやブックトーク等も活用し，身近な本に興味を持つことができるよう働きかけていきたい。

◆　注目 POINT　◆

●図書委員会による読書推進イベントでは，感想コーナー・紹介コーナーを設けたことで，友達の読んだ本に興味を示す児童が増え，読書の幅が広がった。

●読書通帳は，シンプルで書きやすい形式にしたことで，低学年でも取り組みやすかった。シールやコメントをもらえることで，意欲的に取り組むことができた。

住吉台小学校

【児童数：363 人】
（Ｒ５．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

・学校図書館の環境整備や家庭と連携した取組を行い，年間平均読書冊数を 40 冊以上にする。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●毎週月曜日，朝読書に取り組んでいる。隙間時間に読書する姿が見られる。
●学年によって冊数のばらつきがあるので，さらに読書習慣の形成に努める必要がある。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　「親子読書の日」の設定【継】
●毎月第４日曜日を親子読書の日に設定する。

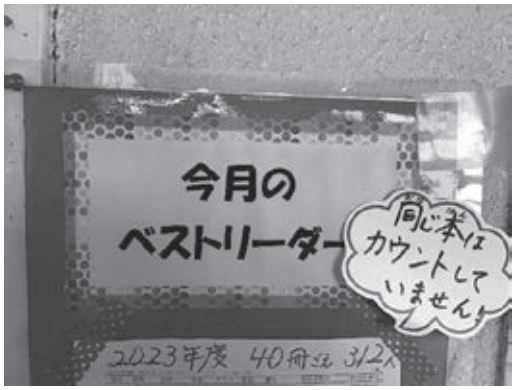
２　図書だよりの発行【継】
●保護者向けと児童向けと２種類のお便りを毎月発行し，図書室の様子を伝える。

３　多読賞の設定【継】
●年間 40 冊以上，３種類のジャンルを３冊以上読んだ児童を表彰する。

４　図書館のレイアウトの工夫【継】
●各教科で学習している内容にそった本やテーマ本を別置する。

５　児童による選書会の実施【新】
●児童による選書を行うことで，読書に興味関心を持たせる。

【ベストリーダーの紹介】



取組による効果

１　「親子読書の日」の設定
●毎月親子読書の日に合わせておすすめの本を図書だよりで紹介した。国語科で学習した教材文に関連した本を図書館の中央に展示することで，手に取る児童が増えた。

２　図書だよりの発行
●毎月児童用と保護者用とを発行した。毎月の図書館イベントの紹介を載せることで参加を心待ちにする児童が増えた。

３．多読賞の設定
●各児童の読書意欲向上につながり，100 冊以上読んだ児童数は 31 名，40 冊以上は 312 名となった。

４　図書館のレイアウトの工夫
●図書館の中心に国語科で学習した教材文に関連した本を別置したり，調べ学習がしやすいように調べ学習コーナーを新設したりしたことで本を探す手間が半減した。

５　児童による選書会の実施
●選書会に参加し様々な図書に触れることで，これまで関心がなかったジャンルの本を手に取るようになった。また，

【調べ学習コーナーの新設】

新しい本を心待ちにし，　図書館を訪れる児童の増加につながった。

目標の達成状況

●令和５年度は年間 40 冊以上読書する児童の割合が 84%と高い結果であった。年間を通して２冊ずつ貸し出すとともに，９類（文学）の本を１冊必ず借りるようにしているため文学作品への関心が高まった。

取組を振り返って

●今年度は「読書センター」「情報センター」「学習センター」の３つの機能としての図書館を目指し整備してきた。児童が本に親しみ，読書を楽しむ習慣を身に付けるためには，本に触れる機会を増やすことが必要である。そこで図書館イベントの開催や選書会等本に興味を持つ様々な工夫を仕掛けることで，効果的に本に親しむ機会を児童に与えることができた。

●図書館だよりを発行することで，学校図書館の役割を発信することができるとともに，子どもの読書への理解を保護者に働きかけることができた。

●学習センターとしての図書館としては司書教諭と図書事務員が連携をして，学習のニーズに応じた選書，市立図書館との連携が欠かせないと感じた。

●教職員・保護者がまた利用したいと思う様々な仕掛けが必要だと感じた。様々な場面で本をつなぐ取組を，引き続き実践していきたい。

【図書館まつりのクイズ】

【図書館委員による読み聞かせ】

◆　注目 POINT　◆

●児童・教職員による選書会の実施で，学校図書館と蔵書に対する興味関心が増した。

●保護者と児童向けの図書館だよりを発行した。

●図書事務員と連携し，図書館の中心に国語科で学習した教材文に関連した本を別置したり，調べ学習がしやすいように調べ学習コーナーを新設したりした。

館小学校

【生徒数：273 人】
（Ｒ５．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

・ブックトークや読み聞かせの機会を多く持ち，読書の楽しさを実感させる。
・デジタル化が進む中，デジタル化と共に歩む図書室を目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●読書への興味・関心が高い児童は多いが，読書習慣がなく，本を手に取る機会が少ない児童も多い。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　児童・教職員・保護者による選書会の実施【継】

●児童・教職員・保護者による選書会「移動本屋さん」を実施し，選書会をもとに図書購入を行った。

【選書会「移動本屋さん」】

２　読書賞の設定【継】

●年間 100 冊（１年生は 80 冊）借りた児童に「読書賞」を授与した。

３　学習支援アプリ「Classroom」の開設・運営【新】

●図書室の「Classroom」を開設し，委員会の児童が作成した図書新聞の掲載・小学生新聞の記事の紹介・新着図書の紹介等を行った。

４　移動書架の設置【継】

●備品購入費で移動式の書架を購入。新着図書を配架し，すぐに手に取れるようにカウンターの隣に設置した。

５　全学年でのブックトークの実施【新】

●ブックトーク実施の計画・運営を図書部で行い，全学年で実施した。

取組による効果

１　児童・教職員・保護者による選書会の実施

●児童や保護者，教職員が選書会に参加し，本を主体的に選ぶ機会を持つことで，図書室への関心が高まった。

２　読書賞の設定

●児童の読書意欲向上につながり，読書賞を目指して図書室に通う児童も多数いた。

３　学習支援アプリ「Classroom」の開設・運営

●新着図書の紹介，委員会作成の図書新聞の掲載，小学生新聞の記事の紹介等を「Classroom」で配信した。児童が自由に閲覧できる環境にしたことで，図書室が身近に感じられた。

4　移動書架の設置

●新着図書への関心が高いので，移動書架に新着図書を配架し，カウンター前に設置した。新しい本をすぐに手に取ることができ，読書の意欲につながった。

5　全学年でのブックトークの実施

●計画・実施を図書部で行うことで，全学年で実施することができた。ブックトークを聞くことで，読書への興味関心が高まった。

目標の達成状況

●ブックトークや読み聞かせを実施する機会を多く持つことで，読書への興味が広がり，様々な分野の本を読む児童が増えた。

●「Classroom」の開設により，新着図書の紹介や図書新聞の発行等，図書室の情報発信がしやすくなった。

取組を振り返って

●卒業間近の６年生に，「学校で一番好きな場所は？」というアンケートをとったところ，教室に次いで，第２位は「図書室」だった。子どもたちにとって，親しみやすく心が落ち着く場所になっていることが分かる。

●読書を楽しむ習慣を身に付けるために，本と触れ合える環境整備が大事になる。図書室の「Classroom」の開設，学級文庫の設置，ブックトーク関連の図書展示，読み聞かせの本の展示，時節に応じた本の展示，新着図書のブックトラック展示等，日常生活の中で本と触れ合える仕掛けをつくってきた。こうした働きかけを行うことで，本が身近になり，本を手に取り，そこから読書へとつながっていく児童も多かった。

●児童・教職員・保護者それぞれが，図書室を創っていく一員となり，より充実した図書室になるよう，引き続き実践していきたい。

【図書新聞】

◆　注目 POINT　◆

●選書に当たっては，「移動本屋さん」を開催し，児童・教職員・保護者・読み聞かせボランティア等，多くの方々に呼びかけて進めた。それぞれの視点で選書を行うことを通して，積極的に図書室に関わろうとする気持ちが高まった。

●図書室の「Classroom」を開設することで，図書新聞の発行・新着図書の紹介・小学生新聞の記事の紹介等を適宜行うことができた。小学生新聞等は来室しないとなかなか目にすることができなかったが，「Classroom」で紹介することによって，児童が新聞に興味関心を持って手に取る機会が増えた。

南光台東中学校

【生徒数：180 人】
（Ｒ５．５．１現在）

◆ モデル校としての目標 ◆

教職員・保護者と連携を図り，全校で読書活動の取組を推進し，読書に関する理解の促進を行うことで，学校図書館における１人あたり年間平均貸出冊数７冊以上を目指す。

学校における読書や学校図書館の状況・課題

●来館者数は１日平均 30 人と多いが，貸出に結び付いていない。

取組内容　※【新】＝新規取組　【継】＝継続取組

１　テーマ別選書コーナーの充実【継】

●読書意欲を高めるため，図書事務員の協力を得て，「ブックトークで紹介された本」「教職員おすすめの本」「１年生おすすめの本」のコーナーを設置し，充実を図った。

２　教頭先生によるブックトーク【継】

●読書意欲を高めるため，教職員や保護者にも周知し，学年ごとにブックトークを実施した。

３　多読賞の設定【継】

●読書喚起のため，３年生は３年間の貸出冊数ベスト 10 を，１・２年生は１年間のベスト 10 を発表し，表彰を実施した。

４　図書室だよりの発行【継】

●新刊図書や長期休業中の開館日時，また，選書会や POP の展示等の紹介をした。

５　生徒・教職員・保護者による選書会の実施【新】

●生徒が主体的に読書に取り組む姿勢を高めるため，選書会を実施した。生徒・保護者・教職員も参加し，選書会をもとに図書購入を行った。

【教頭先生のブックトーク】

【教職員の POP 展示】

６　教職員・生徒・泉図書館との連携による POP の作成と展示【新】

●読書意欲の向上や図書室利用の促進のため，夏休みに教職員が POP を作成し，推薦する本と共に職員玄関前と図書室に展示した。10 月には泉図書館と連携して１年生が POP を作成し，図書事務員の協力を得て，図書室と泉図書館に展示した。

７　回転書架の設置【新】

●備品購入費・消耗品費で購入した回転書架を図書室中央に設置した。

取組による効果

１　テーマ別選書コーナーの充実

●ブックトークで紹介された本を読みたいと，図書室を訪れる生徒が多く見られた。また，作成した POP を見て，本を借りる生徒も見られ，読書意欲の高まりが感じられた。

２　教頭先生によるブックトーク

●生徒・教職員は全員が，保護者についても数名の参加があった。ブックトーク終了後には本を手に取ったり，図書室に借りに来たり，本について話題にする姿が見られ，読書意欲の向上につながった。

3　多読賞の設定

●最多の生徒は３年間で 274 冊の貸出があり，３年生には賞状を授与した。３年生の読書冊数の表彰は下級生にとって読書の喚起につながった。

4　図書室だよりの発行

●生徒のみならず，保護者にも選書会の実施等を伝えた結果，理解の促進につながった。

5　生徒・教職員・保護者による選書会の実施

●授業参観日に選書会を設定したことで, 30 名ほどの保護者の協力を得られた。図書室に初めて足を運んだ保護者もいて，子どもと一緒に本を手に取る様子が見られた。

【１年生の POP 展示】

6　教職員・生徒・泉図書館との連携による POP の作成と展示

●級友が作成した POP を見て，お互いに感想を話したり，本を貸し借りしたりする場面が見られ，読書意欲の向上につながった。また，教職員が推薦する本の貸出もあった。

7　回転書架の設置

●閉架図書である漫画等を回転書架に配架したところ，休み時間に図書室を利用する生徒が増加した。

目標の達成状況

●図書だよりや学校だよりを通して事業について紹介し，選書会やブックトーク，POP 作成の実施についても伝えることで，保護者の理解を得ることができた。

●全校で読書活動の取組を推進し，理解の促進を行うことで，学校図書館における１人あたりの年間平均貸出冊数は目標に至らなかったものの，１か月の平均読書冊数が０冊の生徒は 10%から２%と大幅に減少した。また，１か月の平均読書冊数が３冊以上の生徒が 46%に増加した。

取組を振り返って

●教職員の POP 作成や学校だよりでの事業の紹介等，図書館担当・図書事務員のみならず，学校全体の協力を得られたことで，読書活動の推進に大きくつながった。また，教職員・家庭の意識の向上が顕著であったことから，事業の取組は生徒たちにとっても効果的なものであったと感じた。ただ，学年に限定した取組もあったので，全学年で実践できれば，一層の効果が期待できたと思われる。

●今回の事業に限らず，今後も読書推進の取組を実践し，生涯活動としての「読書」を体得させたいと考えている。

◆　注目 POINT　◆

●生徒のみならず，教職員も POP を作成し，推薦する本と共に職員玄関前と図書室に展示することで，読書意欲の向上につながった。

●選書会に生徒・保護者・教職員も参加し，図書購入を行うことで，読書活動の推進について多くの理解を得ることができた。

（3）令和5年度モデル校事業の総括・今後

各モデル校において，子どもの読書や学校図書館の活用に関する課題を見いだし，解決に向けた取組を行っていただきました。また，児童生徒の本への興味関心を引き出す多様な取組をご検討いただき，読書活動を推進していただきました。

小学校では，選書会や学級文庫づくり，図書委員会が中心となった図書館行事・イベントの実施等，児童が主体的に読書活動と学校図書館の運営に携わる機会を設け，一層本に親しむことができるよう取り組んでいただいた学校が多く見られました。

また，移動書架やブックトラックの整備等により，休み時間に本を手に取ったり，授業で図書資料を活用したりしやすい環境をつくっていただいた学校もありました。

そのほか，家庭内での読書活動である「家読」に関して，「家読の日」・「親子読書の日」を設定し，おすすめの本を特設コーナーや図書だよりで紹介したり，地域の読み聞かせボランティアを活用したり，選書会に保護者や地域の方が参加できるようにしたりと，学校内での連携はもちろんのこと，家庭や地域と共に，様々に工夫しながら読書活動の推進に取り組んでいただきました。

中学校では，生徒・教職員・保護者が参加できる選書会等に加え，教頭先生によるブックトークの実施や，生徒と泉図書館が共に本の紹介 POP を作成・展示するなど，子どもの読書に関わる様々な立場の人が協働する形で，読書活動の推進に取り組んでいただきました。

中学生は小学生に比べ，学習や部活動等により読書の時間をとることが難しくなる傾向にありますが，このような多彩な活動が，読書習慣の形成・定着や，読書に対する周りの人の関心・理解の深まりにつながるものと考えられます。

どのモデル校も，子どもの読書活動を支える環境を整えるべく，工夫を凝らした取組を実施してくださいました。今回の実績を踏まえて，次年度以降も引き続き取組を推進していただければ幸いです。

また，令和５年度の実施内容や，実施した結果，新たに明らかになった課題等を他校にも積極的に共有していただくことで，本市における学校図書館のさらなる効果的活用や子どもの読書活動の推進に努めていただきたいと考えております。

結びに，真摯に活動に取り組まれた令和５年度学校図書館運営モデル校の先生方及び図書事務員の皆さま，並びに事業実施へのご支援・ご協力を賜りました関係各位に心から感謝申し上げます。

令和５年度

仙台市学校図書館運営モデル校
取組事例集

令和６年 10 月発行
仙台市教育委員会生涯学習部生涯学習課
〒980-0011　仙台市青葉区上杉一丁目５番 12 号
TEL：022-214-8886　　FAX：022-268-4822
Email：kyo019310@city.sendai.jp